



# 平成 22 年度外部評価結果 に対する市の考え

施策	事務事業	ページ
地域をリードする医療体制の確立	①在宅当番医制事業 ②医務薬務指導事業	1
みんなで支える子育て支援の展開	①私立児童福祉施設等運営事業 ②地域子育て支援センター事業	4
将来を担う次世代の育成	①適応指導教室事業 ②少人数指導推進事業	10
地域資源をいかした観光・物産の振興	①全国高校生短歌大会事業 ②盛岡市の物産と観光展開催事業	18
にぎわいのある市街地の形成	①盛岡南地区都市開発整備事業 ②太田地区土地区画整理事業	23
都市活動を支える交通環境の構築	①自転車の安全と利用促進に関する事業 ②都市計画道路(盛岡駅南大橋線:大沢川原)整備事業	26

施策名：地域をリードする医療体制の確立

評価の視点	評価コメント	市の考え
課題の明確さ	<p>課題は明確に示されていると思われませんが、いわゆる「コンビニ受診」について、その男女比率、曜日別、月別など具体的な数値情報を把握し、それへの対策を示すことが望まれます。</p>	<p>「コンビニ受診」に係る男女比率等の数値情報を把握するためには医療機関の協力が不可欠となりますが、医療機関の負担が大きく、診療にも影響が生じかねないことから、数値情報を把握するのは困難であると考えます。なお、症状・緊急度に応じた適切な受診等については、医師会や県と連携し引き続き啓発に努めます。</p>
分かりやすさ・説得力	<p>施策の成果「かかりつけ医を持つこと」と事務事業「在宅当番医制」とのつながりを明確にする必要があります。また、課題に対し将来どうしていくかを明確に述べる必要があります。</p>	<p>在宅当番医を受診した方がかかりつけ医をお持ちの場合には、かかりつけ医に対して診察結果等を連絡するなど、以後の再受診や治療などを支援する医療連携を図っています。</p> <p>課題への対応として、救急医療体制や症状・緊急度に応じた適切な受診等については、医師会や県と連携し引き続き啓発に努めること、また、医師確保については、引き続き県・県内他市町村と協力して市町村医師養成事業を実施していくことを明確にします。</p>
施策の推進に関する意見	<p>「在宅当番医制度」についての広報がさらに必要です。</p> <p>施策の成果指標実績値が、H19 から H20 の間に大幅に増えていることについて、背景要因を分析する必要があります。</p>	<p>「在宅当番医制度」については、市広報紙やホームページ、市医師会ホームページ等で引き続き周知に努めます。</p> <p>成果指標実績値については、アンケートの性格上ある程度の数値の変動はあるものと考えますが、これまで県や医師会等関係機関と連携しながら行ってきた救急医療体制等の周知・啓発の成果も要因であると考えます。</p>

<p>評価手法の改善に関する意見</p>	<p>施策の意図「適切な医療が受けられる」の手段として、基本事業「市立病院の健全経営」は、つながりが悪いように思われます。ここでは、市立病院から提供される医療サービスの質や市民の認知・信頼の度合いなどを高めることが意図されるべきと思われまますので、施策体系の改善が望まれます。</p>	<p>基本事業「市立病院の健全経営」を「適切で健全な市立病院の運営」と変更することを検討しています。</p>
----------------------	--	--

事務事業名：在宅当番医制事業

評価の視点	評価コメント	市の考え
<p>成果指標の適切さ</p>	<p>「患者数」が多くなれば「良い」というわけではないので、年次変動の中で、他医療機関の増減と比較する指標の設定が望まれます。</p>	<p>患者数の増減については、感染症等の流行、医療機関の状況等様々な要因により変化するものと考えられますので、成果指標の変更も含めて検討します。</p>
<p>課題の明確さ</p>	<p>評価シートでは、今後の方向性が「現状維持」となっていますが、課題を明確にし、それに対し今後どうしていくのかを述べることを望まれます。</p>	<p>小児科医療機関は減少する傾向にあり、特に当番医制に参加している小児科医療機関の負担が大きくなっている中で、現在の当番医体制を堅持していくことが重要課題であるとの認識から「現状維持」としているものです。今後も、小児科医療機関との連携を深めていくこと、また、小児科医等の確保のため、県・県内他市町村と協力して市町村医師養成事業を実施していくことを説明していきます。</p>
<p>事務事業の推進に関する意見</p>	<p>医師会との連携により成り立っている事業ではありますが、さらに連携を強化することが望まれます。</p>	<p>医師会及び歯科医師会との連携をさらに強化し、救急医療体制の充実を図っていきたいと考えています。</p>

事務事業名： 医務薬務指導事業

評価の視点	評価コメント	市の考え
成果指標の適切さ	<p>法定の事務ですので、目標管理に馴染むのか疑問があります。立入検査数（量）のみではなく、検査項目（質）の指標の設定についても検討の余地があります。</p> <p>また、中核市移行前後の比較が分かるような指標があれば良いと思われます。</p>	<p>法定事務として対象施設ごとに検査項目が定められており、実施機関ごとに検査項目の増減や変容などの裁量は認められておりませんので、検査項目に関する指標の設定は困難なものと考えておりますが、より有効な指標の設定について検討します。</p> <p>なお、中核市移行前は県が行っていた事務事業であることから、中核市移行前後の比較は困難なものです。</p>
分かりやすさ・説得力	<p>効率性の視点で分かりやすく説得力ある説明が望まれます。</p>	<p>関係法令に規定された許認可等事務及び監視指導という事務事業であることから、事業費や人件費の削減による効率性の向上は困難であることを分かりやすく説明していきます。</p>

施策名：みんなで支える子育て支援の展開

評価の視点	評価コメント	市の考え
成果指標の適切さ	<p>具体的な課題をどう克服していくかを表記するのが成果指標です。次に挙げる例も参考に成果指標を再検討する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化対策という視点から、未婚の男女や子育て応援世代（祖父母）に絞ったアンケート調査。</li> <li>・ワークライフバランスや雇用の受け皿減少を考慮し、例えば、盛岡市内事業所内の託児サービス数、育児休業制度3歳まで延長事業所数、子育てに専業している人の割合。</li> <li>・高校生保育体験など一定数抽出した利用者を対象とした「将来、子どもを産みたいか」という意識調査。</li> </ul>	<p>提案された成果指標については、事務事業の成果指標として採用できるか、例示された内容も含めて検討します。</p>
基本事業・事務事業とのつながり	<p>法令等に従って義務的に実施している事業が多く、また保育の問題なのか、人口（出生率）の問題なのか施策の課題が明確でないものと思われます。こうした点を整理しながら施策体系を見直すことが望まれます。</p>	<p>課題については、明確にして分かりやすくすることに努め、必要に応じて施策体系も見直します。</p>
課題の明確さ	<p>保育の問題なのか、人口（出生率）の問題なのか施策の課題が明確でないように思われます。また、「育児不安」の先にあるもの「虐待児童減少」や「要保護児童減少」との関連を分かりやすく示すことが必要です。</p>	<p>課題について分かりやすくすることに努めるとともに、「虐待児童減少」などとの関連についても、分かりやすく示すよう努めます。</p>

<p>分かりやすさ・説得力</p>	<p>施策の意図については、現状分析の状況を詳しく論じる必要があります。</p> <p>保育所の増設や拡充がなかなか待機児童の減少に繋がらない状況を数字で示すことができるとより分かりやすくなると思います。</p>	<p>施策の意図は、市総合計画において決定されているものを評価シート上に転載しており、評価シートに記載する情報を絞り込む中で、このような簡潔な表現となっています。ご指摘を踏まえ、評価シートの記載情報・体裁について全体的な見直しを検討します。</p> <p>保育所の増設や拡充が待機児童の減少につながらない状況については、今後数字で示すように努めます。</p>
<p>施策の推進に関する意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業の発展がなかなか難しい現状では人育て特に子育て支援は市政の要であると考えますが、どのような事務事業を市が実施しているか市民にはあまり理解されていないものと思われま。児童・生徒・一般市民を巻き込んだ事業展開が望まれます。</li> <li>・数値で把握できるものは分かりやすく説得力があります。しかし、本当は相談内容の質など数値に示されないものの方が大事なことも多いはず。相談を受けた方の声や担当者の声など数値で把握できない部分が施策に反映されることが望まれます。</li> <li>・民間の託児所に子どもを預けたり、子育てに専念することも意義のあることです。多様な子育ての選択が可能となるよ</li> </ul>	<p>児童・生徒・一般市民を巻き込んだ事業展開について検討し、市が実施している事務事業を理解していただくよう努めます。</p> <p>相談者や担当者の声については、今後とも施策に反映できるよう努めます。</p> <p>3歳未満児の約7割を占める家庭内保育の方に対するつどいの広場及び子育て支援センター事業や、就業している方</p>

	<p>うな支援の充実が望まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの育ち、地域活動など子育てに専念しながら社会貢献している人が沢山います。育児不安軽減や保育環境の整備はもちろん大事ですが、バランス次第では親の甘やかしにつながる危険もあるはずです。その意味で、事務事業に「親になるための研修」があると良いと思われまます。</li> <li>・保育所の新設、施設整備の助成は国庫金でも費用が膨大と推察しますので、幼稚園施設の活用など幼保一体化施策の進捗を示すことが望まれます。</li> <li>・アンケートについては、モバイルサイトの利用等タイムリーにデータをアップデートすることなどについて検討の余地があります。</li> <li>・費用対効果の面で保育環境の充実における官民比較、待機児童一人当たりを解消するのに追加的にかかるコストの比較等を資料化することが望まれます。</li> </ul>	<p>に対する様々な子育て支援など、多様なニーズへの対応に努めているところです。</p> <p>子育てを通じ、親と子がともに成長すること（子育て、親育ち）が望まれることから、保護者を対象とした「家庭教育を考えるつどい」や3才児とその親を対象とした「なでしこ幼児家庭教育学級」などの事業を実施しているところです。</p> <p>幼保連携として認定子ども園の設置を推進しておりますが、現在国において幼保一体化の新システムが検討されていることから、その動向を注視しながら、必要な対応を検討します。</p> <p>アンケートについては、回答者の偏りや重複回答などが生じないように郵送法により実施しています。</p> <p>ご提案のような詳細なコスト面の分析は、毎年度定期的な実施する行政評価活動としては行っておりませんが、たとえば、保育所民営化の検討の際などに必要に応じて実施しています。</p>
--	---	--

<p>評価手法の改善に関する意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・努力している内容等が対比できるような図や表になっていれば市民にとって分かりやすいと思われま</li> <li>・個別の事務事業相互の連携と全体の中での位置づけを明確にするとより分かりやすくなると思われま</li> <li>・3歳児検診の受診数も数字(%)で示す方法ができれば、市民にとって分かりやすくなると思われま</li> </ul>	<p>市民に分かりやすく評価情報を伝えるため、評価シートの記載情報・体裁について全体的な見直しを検討します。</p> <p>(同上)</p> <p>3歳児健診の実施状況を数値化して、分かりやすく表記するよう努めてまいります。</p>
----------------------	--	--

事務事業：私立児童福祉施設等運営事業

評価の視点	評価コメント	市の考え
課題の明確さ	<p>これまでの課題と現在の課題を対比させる方向であればより理解が得られやすいものになると思われま</p>	<p>市民に分かりやすく評価情報を伝えるため、評価シートの記載情報・体裁について全体的な見直しを検討します。</p>
評価手法の改善に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの課題と解決のための方向性を図で表すとさらに分かりやすいと思われま</li> <li>・評価様式と事業の性質がマッチングしていないと思われま</li> </ul>	<p>市民に分かりやすく評価情報を伝えるため、評価シートの記載情報・体裁について全体的な見直しを検討します。</p> <p>現行では、原則としてすべての事務事業を毎年度定期的な同じ視点で点検する趣旨から、評価シートを統一していますが、ご指摘のとおり、事業の性質に合わない設問・評価項目</p>



	<p>・この事業に限らず成果指標は、市の事業実施により影響の及ぶ範囲(市自らがコントロールできる範囲)で設定することが望まれます。</p>	<p>が一部にあるものと認識しています。今後、事務事業評価の手法を全体的に見直す中で検討します。</p> <p>成果指標については、今後検討します。</p>
--	---	--

**事務事業：地域子育て支援センター事業**

評価の視点	評価コメント	市の考え
成果指標の適切さ	<p>「相談件数」を上げることを成果とするのは、相談を必要とする問題が増加していることも考えられ難しい側面があります。「利用者の満足度」や育児不安が深刻なケースの方達が情報を知っていれば救われることもあるので「認知度」も成果指標として考えられます。</p>	<p>「相談件数」を上げることは、相談できる場所を知っていただいた方が増加していると考えられますことから、現状においては、この指標を継続しますが、「満足度」を加えることを検討します。</p>
課題の明確さ	<p>本事業の必要性について、具体的に市民生活にどのような問題が発生しているのか分析して明示する必要があります。</p>	<p>全国的な傾向と同様に、盛岡市においても児童虐待など家庭相談件数が増加していることなど、市民生活に発生している問題を分析し明示するように努めます。</p>
事務事業の推進に関する意見	<p>・成果を定性的・即時的に把握するため電子掲示板の設置等について検討の余地があります。</p> <p>・情報提供や情報収集にモリオネット（SNS）の活用について検討の余地があります。</p>	<p>・電子掲示板等の設置等について、今後検討します。</p> <p>・モリオネットを活用した情報提供や情報収集について、今後検討します。</p>

	<p>・広場型、センター型、児童館型それぞれの利点から、支援センターでカバーしきれない地域には児童館型を併用するなど柔軟な施策の展開が望まれます。</p>	<p>・支援センターについては、増設を検討していますが、児童館型についても、先進事例などを調査し検討します。</p>
<p>評価手法の改善に関する意見</p>	<p>これまでの課題と解決のための方向性を図で表すとより分かりやすいものになると思われます。</p>	<p>市民に分かりやすく評価情報を伝えるため、評価シートの記載情報・体裁について全体的な見直しを検討します。</p>

施策名： 将来を担う次世代の育成

評価の視点	評価コメント	市の考え
<p>成果指標の適切さ</p>	<p>成果指標「問題行動調査（不登校）の出現率」など、意図に沿った成果指標としては十分とはいえません。施策を開始した当初は仕方がなかったとしても、現在はより多くの指標を設定しないと事業と効果の関連が希薄になってしまうと思われま。また、新しい指標を作るためには、データを得るための調査を独自に行うなどの工夫も必要です。</p> <p>「長期的ビジョンで育てたい岩手の子ども」を市民参加で考え指標に活かすことも意義があると思います。例えば、忍耐強く仕事に取り組む・他人を尊重できる子どもであれば、体力面の忍耐力、持続力、学力面の読解力は全国トップを目指すなど検討の余地があります。また、子どもを育てる（影響をする）のは大人であることから、「盛岡市の社会人の幸福度意識調査」を実施し、その結果を指標化することについて検討の余地があります。</p>	<p>施策の意図は、児童生徒に「知力」・「体力」・豊かな人間性が身につくこととしております。成果指標としては、全国・県との比較が可能で、かつ客観的に評価ができる総括的な指標を設定しております。多くの指標を設定することについては、事務事業の成果指標で捕捉することができるものと考えます。しかしながら、豊かな人間性の成果指標については、現在、「問題行動調査（不登校）の出現率」のみとしておりますが、適切な指標について検討します。</p> <p>・市では、本年度、「盛岡市教育ビジョン（平成17年度～26年度）」の見直しを行いました。その見直しにあたっては、学識経験者の意見や多くの市民からのパブリックコメントをいただきながら策定しました。今後は、このビジョンに示されている事業の指標を成果指標とすることも検討します。なお、「盛岡市の社会人の幸福度意識調査」については、幸福度は、個人によって違いがあることから、成果指標とするのは難しいものと考えます。</p>
<p>基本事業・事務事業とのつながり</p>	<p>施策と基本事業の関係性が不明瞭です。事業の存在優先で基本事業、施策の立案がなされたとの誤解を受けないよう、その関係性については丁寧な説明が必要です。</p>	<p>「知力」「体力」「人間性（徳）」の項目ごとに、「知力」に関する事業、「体力」に関する事業、「人間性」に関する事業と施策との関係を分かりやすく整理します。</p>

<p>課題の明確さ</p>	<p>社会情勢からみて明確とはいえませんが、その課題を課題としてとらえることの根拠（たとえば、「学力低下」がなぜ問題なのか）その根拠を定量的に把握することが望まれます。</p>	<p>課題を定量的に把握することについては、成果指標が全国・県全体と比較が可能になっていることから、その差等の数値を使って示すことも検討します。</p>
<p>分かりやすさ・説得力</p>	<p>施策の意図については、より現状分析を施した結果総括されたものとしてより丁寧に説明する必要があります。</p>	<p>施策の意図は、市総合計画において決定されているものを評価シート上に転載しているものであり、評価シートに掲載する情報を絞り込む中で、このような簡潔な表現となっています。ご指摘を踏まえ、評価シートの記載情報・体裁について全体的な見直しを検討します。</p>
<p>施策の推進に関する意見</p>	<p>・盛岡市の人材育成の観点からは、「幼稚園から社会人」まで成長段階に応じての取組みが必要ですが、幼・小・中・高・大・社会人とのつながりが見える仕組みはなかなかないと思われます。基本事業から事務事業へと施策を組み立てる際に10年単位など長期にかかわれる行政の仕組みを盛岡市としても検討することが望まれます。</p> <p>・「健全育成」は福祉部局と横断的に課題に取り組むと市民には分かりやすいと思われます。</p> <p>・次世代育成はそのビジョンを決める過程に、教育関係者だ</p>	<p>長期のビジョン及びビジョン策定過程での関係機関等との連携については、市としては、有識者より意見をいただきながら独自に、平成17年度から26年度までの10年間を見通した教育ビジョンを策定していますが、社会情勢の変化等に対応するため、22年度に見直しを行いました。そのビジョンの中で、施策と関連する事業を体系的に設定しています。また、市では、保健福祉部が中心となり、市社会福祉審議委員会児童福祉専門委員や多くの市民の皆様や関係機関、団体から意見を頂きながら、平成17年度から26年度までの10年間を見据えた「もりおか子ども育成プラン」を策定しています。その中でも具体的事業に成果指標を設定して推進することとしています。</p> <p>「健全育成」については、これまでも市民部や保健福祉部</p>

	<p>けではなく関係機関、関連部署など多くを巻き込む視点が大事だと思われます。学力向上・豊かな人間性が及ぼす効果を説得し納得させられると実現に近づくとおられますので、影響・つながりまでさらに分かると広がりが得られます。</p> <p>・上記の視点を踏まえるならば、施策を達成する手段として足りない部分もあり、補わなければならない事務事業もあると思われます。</p>	<p>をはじめ関係機関との連携を図って取り組んできました。今後も、関係機関等と連携して取り組みます。</p> <p>施策を達成する手段として足りない部分については、新しい「教育ビジョン」の実現に向けて事務事業を見直す過程で検討をします。</p>
<p>評価手法の改善に関する意見</p>	<p>・全国平均値より「高い・低い」の数字を色分けするとより、理解が進むと思われます。</p> <p>・度数分布表が反映されればより、分かりやすくなると思われます。</p> <p>・翌年度以降に残る課題の中で、重点項目を設定して、その取組みを字の大きさを変えるなど視覚に訴える方法も有効と思われます。</p>	<p>市民に分かりやすく評価情報を伝えるため評価シートの記載情報・体裁について全体的な見直しを検討します。</p>

事務事業名： 適応指導教室事業

評価の視点	評価コメント	市の考え
<p>成果指標の適切さ</p>	<p>当該事業の性質に鑑みると、児童の行動変容をモニタリングすることについても検討の余地があります。</p>	<p>通級児童生徒の学校復帰に向けては、個々の状態や変容をしっかりと捉えていくことが大切であると考えています。成果指標として「学校への復帰率」を挙げていますが、復帰に向けては3段階のプログラムを設け、一人一人の心や体の状</p>

	<p>犯罪防止、自殺やいじめ、将来の虐待予防の観点から対象者の変容は社会的な意味（社会人として納税責任を果たせるか等）が大きいですので、「学校復帰」が難しくても「自己肯定感」や対象者の感想、保護者や担当される方の声に関する成果指標について検討の余地があります。また、全国、岩手県、同規模の他都市と比較ができればさらに良いと思われま</p>	<p>態を把握し、段階的な支援を行っています。</p> <p>不登校の状況にあり、適応指導教室に通級している児童生徒と、犯罪・自殺・いじめ・虐待とを重ね合わせて捉えることはできないと考えますが、適応指導教室では、様々な体験活動を通して、児童生徒に「自己肯定感」を育成することを大切にしています。そのために、活動後には感想や自分の成長について書く活動を位置付け、振り返りを大切にしています。また、退級時や親の会（保護者会）の時に、本人や保護者から適応指導教室の活動についての感想等を聞き、運営に生かしておりますので、新たにこの点についての成果指標を設けることは考えておりません。全国等との比較については、各自治体によって、設置や運営方法が異なっており、難しいと考えます。</p>
<p>課題の明確さ</p>	<p>課題を精査し、緊急・重点的に取り組む必要があることを明記することが望まれます。また、担当する職員によって事業が左右される面が大きと思われることから、携わる人材の質をいかに確保していくのかも課題ではないかと思われま</p>	<p>年度によって、通級している児童生徒が抱えている問題に違いがありますので、今後も一人一人の課題を捉え、適切に支援していきたいと考えます。適応指導教室では、職員が互いに指導を参観しあったり、外部講師を招聘したりしながら、年間8回の研修会を実施し、指導力の向上に努めています。</p>

<p>分かりやすさ・説得力</p>	<p>評価シートの「課長意見・全体総括」に「複雑な問題をはらんでいるケースも多く、学校のみでの努力では解決できないものも見られる」との記載がありますが、本事業を補う取組み（SC以外にSSW、BBSなどの仕組みづくり）について、福祉部局とも連携しながら検討することが望まれます。</p>	<p>児童生徒が抱える問題は、多様化・複雑化しており、他機関との連携が大切であると考えています。SC（スクール・カウンセラー）やSSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）との連携は現在も行っています。BBS（ビッグ・ブラザーズ・アンド・シスターズ）につきましては、近郊の大学にボランティアの募集を行い、昨年度は3名の大学生が教室に入り、通級生の活動を支えてくれました。福祉部局との連携も図っていますが、今後も充実に努めます。また、このような連携についても、今後は分かりやすく表記するよう努めます。</p>
<p>事務事業の推進に関する意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場の意見をより詳しく分析する必要があります。</li> <li>・不登校の改善は、その要因を洗い出すことですが、医療機関や他機関との連携等が重要と考えます。特に保護者へのアプローチが最短距離となる場合があります。保護者の心身の安定が、重要なポイントと考えられます。保護者への支援を関係機関で作りに上げていくことがより重要です。</li> <li>・関係者が足を運んで、教職員や保護者に話を聞いていることは重要なことです。その中から改善点も見えてくることと</li> </ul>	<p>通級児童生徒が在籍する学校との連携は、特に大切であると考えています。現在は、毎月相互に活動の様子等を報告し合い、学校復帰に向けた手立てを検討しています。また、職員が学校を、担任の先生が適応指導教室を訪問する等、連携を図りながら改善に向けた話し合いを行っています。</p> <p>保護者が問題を抱え込んでしまっていたり、接し方に苦慮していたりする場合がありますので、保護者とは定期的に面談を実施しています。また、親の会（通級する児童生徒の保護者会）を、教室毎に年5回開催し、保護者の悩みや支援の仕方について話し合う場を設けています。</p> <p>適応指導教室とは別に、教育研究所では「児童生徒の生活や意識の調査」や「保護者の子育て意識に関する調査」を実</p>

	<p>思います。また、子どもの不安や人間関係などの調査を実施し、分析するなどして改善点に結びつけていくことも重要と思われる。調査の積み重ねによりその地域の課題も見つかるものと思われる。</p> <p>・「適応指導教室」では児童・生徒、保護者との深い信頼関係が求められます。職員の異動に左右されない長期的見通しの空間、長期的展望の元に運営できる体制などの見直しについて検討の余地があります。</p>	<p>施していますので、それらの分析結果等を生かしながら支援していきたいと考えます。</p> <p>適応指導教室は、平成5年に設置され、平成11年に2教室に増え、平成12年から現在の中央通・仙北教室の開設となっています。設置場所や職員配置等を含めた計画的な運営について検討します。</p>
評価手法の改善に関する意見	<p>復帰児童数を上げることは必要ですが、中長期的には将来の犯罪者発生率の他市比較や時系列比較が必要と思われる。す。</p>	<p>不登校の状況にあり、適応指導教室に通級している児童生徒と犯罪者発生率との関係を結び付けることは、できないものと捉えています。</p>

**事務事業名： 少人数指導推進事業**

評価の視点	評価コメント	市の考え
成果指標の適切さ	<p>現行の成果指標は、アウトプット指標です。次に挙げる例も参考に成果指標の検討が必要です。</p> <p>・基本的な生活習慣が身につけていない、集団になじめないなどの子どもの、全国、岩手県、同規模の他都市と比較した割合</p> <p>・盛岡市内の小学校1年生・中学校1年生の問題行動を統計的に把握し、経年での数値の改善割合</p>	<p>本事業は、岩手県教育委員会の「すこやかサポート推進事業」を補完する事業として、すこやかサポート配置がない学校に非常勤講師を配置するものであります。「すこやかサポート推進事業」は、小学校入門期における基本的な生活習慣の定着と基礎学力の向上を目的としており、本事業の目的も同じと考えています。少人数指導の教育上の効果はすでに認識されているところでありますことから、できるだけ人員を配</p>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師への学級経営に対する意識調査による「負担を感じる度合い」</li> </ul>	<p>置して児童に目が行き届きやすくすることが基本と考え、配置数の向上が成果指標として有効と認識しています。今後におきましては、児童の不応状態の改善、教師の負担感の改善など、実際の効果を計る指標の設定も検討します。</p>
課題の明確さ	<p>少人数学級の必要性を明確に述べるとともに、未配置学級はどれくらいあるのか、課題に対してどのような対策を講じるのかを明確に示す必要があります。</p>	<p>新1学年の入学前にその学級の実態を捉えるには難しさも伴いますが、未配置学級を有する学校から情報を収集し、課題の明確化を図るとともに、教育上の効果・有効性について、さらに説明を加えるように検討します。また、国の小学1年の35人学級実施に伴う「すこやかサポート推進事業」の動向については注視していく必要があると認識しています。</p>
分かりやすさ・説得力	<p>23年度からの目標数が極端に減少することについて説明が必要です。</p>	<p>平成22年度は、緊急雇用対策事業の活用により、目標数が増加しました。今後は、予算規模により目標値に変動があった場合等、適宜丁寧に説明を加えます。</p>
事務事業の推進に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場の意見をより詳しく分析する必要があります。</li> <li>・配置学級数充足率が100%でないということは、行政サービスの公平性を欠きます。最も重要な公平性を欠くということであれば、その欠点を補って余りある効用があることを説明する必要があります。</li> </ul>	<p>少人数指導の効果については、広く認知されており、市としてもこれを推進する考えです。今後は学校現場の必要性、成果や課題について情報を収集しながら、事業の効果を高めたいと考えます。</p> <p>配置学級数充足率については、配置基準を満たすすべての学校に講師を配置できるよう努めます。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な生活習慣を身につけさせる、また、家庭での学習の習慣をつけさせるために宿題を出す、などの改善策と重点目標を掲げ、取り組みを明記しながら、調査分析することが有効ではないかと思われます。</li>   <li>・ 保護者、地域支援者、学生、ボランティアなど学校を地域の学びの軸として効果的に相互に支援するしくみをNPOやサークル、ボランティア活動で取り組んでいる例が数多くありますので、先行事例を参考に事業の見直しの検討が望まれます。</li> </ul>	<p>少人数指導推進事業によって各学校から得られる成果や課題を分析し、学習方法の工夫等を各学校に提供するよう努めます。</p> <p>放課後学習指導、読書ボランティアなど地域との連携は市の教育振興運動の一環として進めています。授業にボランティアの参加を受け入れ、少人数指導を実施していくことは難しいと考えますが、学校現場と一緒に広く活用について研究します。</p>
--	--	---

施策名： 地域資源をいかした観光・物産の振興

評価の視点	評価コメント	市の考え
成果指標の適切さ	<p>「観光客入込数」は市の独自調査による推計値で把握していますが、精度の点で課題があります。当面は「宿泊数」「乗客数」などを補助的な成果指標とすることが必要です。</p>	<p>観光客入込数は、国から示された調査方法に基づき、観光施設等からの聞き取り情報を集計して推計値を求めています。ご意見を踏まえ、補助的な指標の設定などについて検討します。</p>
施策の推進に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業振興は幅広い分野ですが、年度ごとに重点施策の絞込みを行うとともに市民への広報活動の重点化が望まれます。</li> <li>・「おもてなしの心」を地域全体の責任と課題として、さらに高めていくことが望まれます。</li> <li>・市が作成するHPやチラシについて、アピール度を高めるよう改善が望まれます。</li> <li>・盛岡駅内の観光案内所の場所は不適切です。見やすい場所、</li> </ul>	<p>各年度の重点施策は、施策の優先度評価や成果実績、総合計画の基本目標との関連など総合的検討を行い、行政評価を活用した施策別予算配分方式により予算を編成しており、施策の内容と運営方針、個々の事業と予算の内容などは、市の広報やホームページを通じて市民の皆様にお知らせしておりますが、今後も一層の周知に努めます。</p> <p>「おもてなしの心」を地域全体の課題としてとらえ、観光団体などと連携し、各種セミナーなどを通じて、さらなる意識の醸成に努めます。</p> <p>パンフレットやホームページなど観光情報の発信については、盛岡の魅力が伝わるよう、また、観光客に十分にアピールできるよう、工夫します。</p> <p>盛岡駅2階南改札口近くの観光案内所は、隣接するJRイ</p>

	<p>入りやすい環境を整えることが望まれます。</p> <p>・東北新幹線青森延伸に対する対策を課題として明確にすることが必要です。</p>	<p>インフォメーションセンターと連携した観光案内や外国語対応のサポートなど、初めて盛岡に来た方や外国人にも利用しやすい環境にあると考えておりますが、今後も観光客にご不便をおかけすることがないように、関係機関と連携し、適切な観光案内に努めてまいります。</p> <p>東北新幹線の青森延伸により、交通の結節点としての優位性から北東北3県における盛岡の拠点性が一層高まり、地域経済に好影響をもたらすとともに、北海道からの観光客や修学旅行の増加が期待されると考えます。また、北東北への関心が高まり、ビジネスや観光、スポーツや学術・文化など各分野の交流の活発化が期待されますことから、東北新幹線の全線開業を交流人口の拡大による地域活性化の好機ととらえ、県や広域市町村などと連携し、課題を明確にしながら、各種施策を展開します。</p>
<p>評価手法の改善に関する意見</p>	<p>・物産品目ごとに事業評価を行っていますが、同様の目的の事業はまとめることについて改善の余地があります。</p> <p>・基本事業1と2は、内容が類似しているため、統合について改善の余地があります。</p>	<p>盛岡特産品ブランド認証品目の中で、盛岡の特産品として認知度も高く、普及宣伝効果の高いブランドリーダーを対象とする事業を進めており、個別の事業評価が必要であると考えます。</p> <p>基本事業1「観光地づくりと観光客の誘致」と2「観光交流の推進」は一部内容の類似がありますことから、内容を整理するなど表現を工夫します。</p>

	<p>・施策を構成する事務事業のうち「盛岡ブランド市民推進会議事業」「特産品ブランドマーケティング事業」「めん都盛岡推進事業」の成果指標を「売上高」とすることについて検討の余地があります。</p> <p>・施策を構成する事務事業のうち「盛岡さくらまつり事業」の成果指標「高松の池周辺の渋滞距離」は見直す必要があります。</p> <p>「手づくり村」「もりおか検定」などアウトソーシングや協働している部分も含めて全体の体系がわかるようにすることが望まれます。</p>	<p>適切な成果指標について検討します。</p> <p>ご意見を踏まえ、現在の成果指標を見直し、事業の目的や内容などと整合する適切な成果指標の設定について検討します。</p> <p>市民に分かりやすく評価情報を伝えるため、評価シートの記載情報・体裁について全体的な見直しを検討します。</p>
--	--	--

**事務事業名：全国高校生短歌大会事業**

評価の視点	評価コメント	市の考え
成果指標の適切さ	<p>この事務事業は「観光客入込数」を増加させる手段としては相関が弱いのではないかと考えられます。</p> <p>参加校・参加学生の評価を成果として把握する必要があります。また、参加学生以外の人々の「短歌甲子園」の認知度やインターネットアクセス数などを指標とすることについて検討の余地があります。</p>	<p>この事業の目的や内容などと整合する適切な成果指標の設定について検討します。</p> <p>参加学生の評価については、平成21年度と同様に定期的な実施成果の把握に努めます。インターネットのアクセス数を成果指標とすることについて検討します。</p>

<p>事務事業の推進に関する意見</p>	<p>インターネットで作品や大会の写真などを公開したり、ツイッターを活用した双方向型のコミュニケーションの場を作るほか、テレビ番組で取り上げてもらえるような働きかけなど、認知度の向上を図る取組みが必要です。取組み自体は素晴らしいものなので、より多くの方に知っていただくとともに、参加校数を増やす方策が必要です。</p>	<p>受賞作品については、盛岡ブランド市民推進会議やウェブもおかのホームページで公開していますが、写真については、個人情報の問題もあり、慎重に検討します。ツイッターの活用については研究します。BS放送や地元のテレビ番組などで放映されていますが、認知度の向上に向け報道機関などへの働きかけのほか学校関係組織への周知に努めます。</p>
----------------------	---	--

事務事業名：盛岡市の物産と観光展開催事業

評価の視点	評価コメント	市の考え
<p>成果指標の適切さ</p>	<p>「出展者数」を増やすことを指標に取り上げていることは評価できますが、物産展の来場者の評価やリピート率、インターネットアクセス数などを指標とすることについて検討の余地があります。</p>	<p>ご意見を踏まえ、現在の成果指標のほか、来場者の評価やリピート率など、適切な成果指標の設定について検討します。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出展者数が減っている所以对策が必要です。</li> <li>・首都圏、北海道を主力ターゲットにし、次いで関西、九州などメリハリをつけることが望まれます。物づくり⇒マーケティング⇒売上増加・観光客の増加という連携を大切にすることが望まれます。</li> </ul>	<p>事業の目的が達せられ、最大の効果が上げられるよう、出展者数の確保に努めます。</p> <p>マーケットの重点化や、開催地の絞り込みなど、事業の目的が達せられ、最大の効果が上げられるよう努めます。</p>
<p>事務事業の推進に関する意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催場所について、首都圏の拠点を維持する視点から戦略性を持って設定することが望まれます。</li> <li>・地域住民がまず地域の特産品を見直す機会がもっとあっても良いものと思います。</li> <li>・岩手県と共同で開催できるものは共同で実施する必要があります。</li> </ul>	<p>開催場所については、首都圏の拠点を維持しながら、安定的なマーケットの確保と新たな販路開拓など、長期的な戦略の下で考えていきます。</p> <p>物産の振興に当たっては、地場産品や特産品の価値に対する地元市民の理解が欠かせないと考えており、市内で開催する物産展や「小さな博物館」事業などを通じて市民へのPRに努めていますが、今後も引き続き、地場産品や特産品の普及啓発に努めます。</p> <p>中部圏や大阪圏、沖縄などで開催する物産展は岩手県などと共同開催しており、今後も緊密に連携しながら取り組みます。</p>

施策名：にぎわいのある市街地の形成

評価の視点	評価コメント	市の考え
成果指標の適切さ	当該施策はソフト面を含めた幅広い事業であるため、ハード面での指標だけではなく、ソフト面の指標についても検討の余地があります。	「にぎわいのある市街地の形成」は、土地区画整理事業による都市基盤整備にとどまらず、その後の施設立地による土地利用の推進を図ることも重要な要素であることから、その観点に基づいた「ソフト面の指標」について、今後検討していくこととします。
課題の明確さ	課題は明確であると思われませんが、新旧市街地それぞれの性格付けや整備方向の違いについて、より具体的に記述することが望まれます。	各地区における地域特性や役割及び整備状況や今後の見通し等を踏まえて、より具体的に記述することとします。
施策の推進に関する意見	社会環境の変化に対応できるように、事業推進のフレキシビリティが望まれます。	少子高齢化や人口減少、土地価格の下落等の社会経済情勢の変化を踏まえて、今後の、柔軟な事業推進のあり方について検討していくこととします。
評価手法の改善に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業が完了して初めて効果が出る事業であり、単年度で評価する意味合いは薄いと思われまます。</li> <li>・成果指標において、近隣自治体との成果水準比較がないことに対する補足説明を載せることについて、改善の余地があります。</li> </ul>	<p>現行では原則としてすべての事務事業を毎年度定期的に同じ視点で点検する趣旨から、評価シートを統一していますが、ご指摘のとおり、事業の性質に合わない設問・評価項目が一部にあるものと認識しています。今後、事務事業評価の手法を全体的に見直す中で検討します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民に分かりやすく評価情報を伝えるため、評価シートの記載情報・体裁について全体的な見直しを検討します。</li> </ul>



事務事業名：盛岡南地区都市開発整備事業

評価の視点	評価コメント	市の考え
分かりやすさ・説得力	目的は新都市開発整備であり、当該事業は目的達成の手段に過ぎず、区画整理の進捗状況の説明だけでは物足りなく思われます。将来に向けた課題を一般市民にさらに伝えることが望まれます。	今後は、盛岡南地区の持つ都市機能を示すとともに、基盤整備状況に加えて、施設立地等の土地利用状況も伝えていくこととします。
評価手法の改善に関する意見	長期に渡る事業であり、単年度での評価は難しいと思われ ます。	現行では原則としてすべての事務事業を毎年度定期的に同じ視点で点検する趣旨から、評価シートを統一していますが、ご指摘のとおり、事業の性質に合わない設問・評価項目が一部にあるものと認識しています。今後、事務事業評価の手法を全体的に見直す中で検討します。

事務事業名：太田地区土地区画整理事業

評価の視点	評価コメント	市の考え
分かりやすさ・説得力	評価欄の「投資効果」「効率性」に費用・便益の分析が示されていますが、街路整備についてのみの提示となっています。他の観点からの分析についての検討が望まれます。	今後は、太田地区の持つ都市機能を示すとともに、基盤整備や土地利用状況の観点からの分析と評価について検討していくこととします。
事務事業の推進に関する意見	・着手した事業については、できるだけ早期に完了させるという姿勢を明確に示すことが望まれます。 ・未着手部分の実施の適否については検討の余地があります。	今後も事業費の確保と整備の進捗に努めるとともに、少子高齢化や人口減少、土地価格の下落等の社会経済情勢の変化を踏まえた、柔軟な事業推進のあり方について検討していくこととします。

<p>評価手法の改善に関する意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期に渡る事業であり、単年度での評価には難があると思われます。</li> <li>・目標年度までには実現の難しい目標値を入れたままにしている状況も、社会経済状況からはやむを得ませんが、評価としてどう扱うか、検討の余地があります。</li> </ul>	<p>現行では、原則としてすべての事務事業を毎年度定期的と同じ視点で点検する趣旨から、評価シートを統一していますが、ご指摘のとおり、事業の性質に合わない設問・評価項目が一部にあるものと認識しています。今後、事務事業評価の手法を全体的に見直す中で検討します。</p>
----------------------	---	--

施策名：都市活動を支える交通環境の構築

評価の視点	評価コメント	市の考え
成果指標の適切さ	<p>成果指標「交通の手段分担率の変化」については、意図が「マイカー利用の抑制」であることから、成果指標も「自動車分担率を下げる」にするなど、今後事務事業を進めるにあたって、その目標が明確になるような指標を設定することが望まれます。</p>	<p>成果指標の見直しは、基本事業・事務事業体系の分類にも関連すると考えられることから、体系分類への影響も考慮し市総合計画の見直し等の機会を捉えながら、一層の目標の明確化とあわせた成果指標について検討します。</p> <p>併せて、事業レベルでの目標の明確化にも努めます。</p>
基本事業・事務事業とのつながり	<p>この施策に基づいて基本事業・事務事業では何を重視していくのか、事業レベルの目的をより明確にすることが望まれます。</p>	
分かりやすさ・説得力	<p>評価シートは一般市民が理解できるように改善することが必要です。</p> <p>また、自動車利用率が減った要因としてバス利用促進施策を挙げていますが、分担率のデータではバス利用は増加していません。因果関係を明確にすることが必要です。</p>	<p>市民に分かりやすく評価情報を伝えるため、評価シートの記載情報・体裁について全体的な見直しを検討します。</p> <p>バス利用者は、近年、横這いの傾向にあり、このことを捉えて自動車利用分担率減少の要因と考えたものですが、ご指摘のとおりバス利用分担率は減少しており、分担率の視点では、今回の表現は因果関係が明確でないと考えますことから、今後、改めます。</p>

<p>施策の推進に関する意見</p>	<p>ブルーゾーンのネットワークの優先度が不透明であり、明らかにすることが望まれます。</p>	<p>ブルーゾーンについては、平成21年度に自転車利用が多い主要な方向に対する整備計画をモデル的に立案し、当面、当該路線の整備を重点的に行うこととしています。</p> <p>一方、それ以外の路線につきましては、順次、ネットワーク計画を立案し、優先順位を定めることとしております。</p>
<p>評価手法の改善に関する意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果指標「交通の手段分担率の変化」について、分担率のデータは市民アンケートの結果であり、5%程度の誤差が考えられるため、年度ごとの評価に用いるには慎重になるべきです。数年単位で傾向を見ていく等の検討の余地があります。</li> <li>・成果指標「1日当りバス・鉄道利用者数」では利用者数の実数を単位として使用していますが、今後の人口減少などを考慮して、人口千人当たりの割合を用いることについても検討の余地があります。</li> <li>・一部の成果指標において、近隣自治体との成果水準比較がないことに対する補足説明を載せることについて、改善の余地があります。</li> </ul>	<p>今後とも、分担率の状況を把握しながら、数年単位で傾向を捉えていきます。</p> <p>ご指摘を踏まえながら、より分かりやすい成果指標について検討します。</p> <p>市民に分かりやすく評価情報を伝えるため、評価シートの記載情報・体裁について全体的な見直しを検討します。</p>

事務事業名 : 自転車の安全と利用促進に関する事業

評価の視点	評価コメント	市の考え
成果指標の適切さ	ブルーゾーンの取り組みが限定された地域であるのに対して、成果指標の事故件数は市内全域のものになっています。将来的には年度ごとに完成した箇所の成果が分かる指標が望まれます。	ご指摘を踏まえ、データ把握の可能性等につきまして関係機関に相談します。
分かりやすさ・説得力	走行空間の整備やマナー向上策について、関係機関との連携のあり方に関する具体的な説明がやや不足しています。 また「事務事業の基本情報」欄における「環境が整うとともに、利用者のマナーの向上が図られる」の部分については、さらに丁寧で分かりやすい説明が必要です。	ご指摘を踏まえ、今後はより丁寧で分かりやすい表現に改めます。
事務事業の推進に関する意見	事業の意図が総花的な印象を受けました。意図をはっきり定めたうえで、より具体的な成果指標にしていくことが望まれます。	本事業は、自転車走行環境整備と合わせ安全利用に対する取り組みが必要と考えています。このため、ご指摘を踏まえながら、交通安全担当部局との一層の連携を図り、事務分担の明確化を図るなどし、事業の意図が明確になるよう努めます。

事務事業名 : 都市計画道路(盛岡駅南大橋線:大沢川原)整備事業

評価の視点	評価コメント	市の考え
成果指標の適切さ	整備延長や整備率を指標とするのもやむを得なくはありますが、整備終了後には渋滞解消に関する指標を用いることが望まれます。	単路線の整備で渋滞解消は図れませんが、ご指摘の趣旨を踏まえながら、より分かりやすい成果指標について検討します。

<p>分かりやすさ・説得力</p>	<p>「今後の方向性」において「道路整備が追いつかず」という観点だけではなく、現状や今後の方向性、他の施策・事業との整合性も考慮した記述が望まれます。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、もりおか交通戦略における本路線の位置付等について分かりやすい表現に改めます。</p>
<p>評価手法の改善に関する意見</p>	<p>長期のスパンを要する事業であるため、短期の成果にはあまりこだわらなくてもよいと思われ、その前提のもとでの評価・市民説明が望まれます。</p>	<p>現行では、原則としてすべての事務事業を毎年度定期的と同じ視点で点検する趣旨から評価シートを統一していますが、ご指摘のとおり、事業の性質に合わない設問・評価項目が一部にあるものと認識しています。今後、事務事業評価の手法を全体的に見直す中で検討します。</p>